【はじめに】
　全国で７２５番目となる青年会議所が小平の地に創立されてから、今年で４２年目となります。この間、私たち小平青年会議所は、地域に根差し、明るい豊かな社会を目指して、修錬・奉仕・友情の３つの信条を掲げ、青少年育成・まちづくり・会員の資質向上の事業を行って参りました。当会が４２年と長きに渡って運動を続けることができたのは、ひとえに先輩たちの志高き奉仕の精神と、行政並びに地域関係団体皆様からの温かいご支援ご協力の賜物であり、ここに厚く感謝御礼を申し上げます。引き続き、５年後１０年後もその先も、当会が地域に根を張り活動していけるように、会員一丸となって青年会議所運動を展開して参ります。

【想いを繋ぐ　戦後８０年の節目を迎えて】
　今年は戦後８０年の節目の年となります。毎年夏の時期には報道で戦争の特集が組まれ、私達は不戦への誓いを心に立てます。しかし、世界に目を向けたとき、ウクライナ・ロシアの国家間の戦争や、イスラエル・ガザの民族間による紛争など、今なお各地で戦闘が行われている現状があります。こどもや病人が巻き込まれたニュースや、親やこどもが亡くなった姿、爆撃により自宅に住めなくなった方や非戦闘員への一方的な殺戮といった報道をみると、胸が張り裂けそうになりますが、それらは綺麗ごとでは済まされない戦争・紛争の一面なのだと痛感いたします。戦後の日本に生まれた私たちは、空襲におびえることも、家族を戦争で失うことも経験することなく暮らすことができています。しかし、現代の紛争地帯においても、戦時下の日本においても、自身や家族の生命・身体・財産は常に危険にさらされており、この東京においても一夜にして１０万人以上の命が失われた日があったことを私たちは忘れてはいけません。
　終戦を迎えた１９４５年までに生まれた人の内、１０００万人以上の方がこの１０年の間でお亡くなりになりました。戦時下の様相が風化する前に、私たち若い世代こそが、戦争を体験された方やご家族が戦争に従事された方の話を聞き、戦争の体験談をわが身に置き換え子どもたちにも語り継いでいかなくてはいけません。子や孫の世代にもこの平和の世が続くよう、平和について考える事業を展開して参ります。

【笑顔はじける青少年育成について】

こどもたちには『知的好奇心の探求』を
　日本が世界に誇るものづくり産業の根幹を支えてきたのは、『なんでだろう』に始まり『やってみよう』の知的好奇心や探求心にあったと考えます。かつて日本はGDPも国際競争力も、世界トップクラスだった時代がありました。しかし、近年そのプレゼンスは失われ、２０２４年の世界競争力ランキングにおいて日本は３８位と３年連続で過去最低を更新しました。日本のGDPの約２割を占め、中心的な役割を担っているものづくり産業においても、新興国の台頭により、シェアを奪われる苦しい状況は続いています。資源大国ではない日本においては、持てる技術を結集し、ものづくりで勝負をしていくことがこれからも求められていることに変わりはありません。

いつの時代も日本のものづくりは、生活をより豊かにしてきました。日本の製品が海外に輸出され、海外の技術レベルを引き上げた事例は少なくありません。日本のものづくりは、製造して販売するだけの生産活動だけに留まらず、どうやったら使い手が満足するか、喜ぶかという顧客ファーストの視点や開発陣のあくなき知的好奇心を原動力としたイノベーションへの想いがあったと考えます。
これからの日本を担うこどもたちに、ものづくりの重要性を伝えていくことが、将来の日本の競争力を支えるためには必要と考えます。そのためには、幼少期からちょっとした違いに気づき、それを検証し、解を導く経験を積み重ねていくとともに、人とは違うことでもまずはやってみようと挑戦する姿勢が必要です。身近なことに『なんでだろう』という知的好奇心をもち、ものづくりへの関心を高める事業を展開して参ります。

集団行動と仲間づくりの機会の提供を
コロナ禍では、多くの事業・イベントが中止になり、こどもたちの集団行動の機会も減りました。それは、学校教育の現場の話に留まらず、地域団体の活動においても同様です。その結果、集団行動を通じて得られる『人から評価され、励まされ、叱られ、認められる機会』や、仲間とともになにかを作り上げる経験や、他者とのコミュニケーションをとる機会についても、従前に比べて乏しいものになっています。かつて、当会主催のなわとび甲子園という事業がありました。市内中の小学校から成績上位を目指してこどもたちが参加された、当会を代表する事業の一つでありました。学校によってはなわとび甲子園に向けて放課後こどもクラブが作られ練習に励まれるほど盛況で、コロナ禍で事業を中止にした際には本当に多くの方から再開を期待する連絡をいただきました。
なわとび甲子園は、まさに『人から評価され、励まされ、叱られ、認められる機会』だったと考えております。そこで同年代のこどもたちとの交流や、仲間とともに目標に向かって切磋琢磨する機会を、私達小平青年会議所が、今一度提供しようではありませんか。
あれも中止これも中止と活動を制限されてきたこどもたちに、学校のクラスや所属するスポーツ団体といったコミュニティの枠を飛び越え、目標を立てて全力で挑戦する機会を提供いたします。自分一人では成しえないこと、仲間とともに達成することの悦びを、スポーツを通じて体感していただく事業を展開して参ります。

【『あなた』に届ける広報を】
どんなに良い事業も地域の皆さんに認知されなくては、動員につながりません。ご来会頂きたい方にどのように情報を届けるかが、広報では重要となります。昨年当会は、鷹の台駅前にてこども祭りの開催を通じて新たなまちのにぎわいや地域の活性化に資する事業を行いました。まちなかのポスターの掲示や新聞折込でのチラシの配布という従来からある広報を精力的に取り組んだところ、開催当日は広報物をみてくださったこどもたちが大勢集まりました。やはり今なお一番効果がある広報は、紙媒体であることは間違いありません。
SNSの普及によって、事業の広報は簡単にできるようになりましたが、SNSでの広報は、一部の方への情報の発信に留まっていることや莫大な費用を必要とする面からしても、限界があることを痛感いたします。そうかといって、朝早く家を出て、

日が暮れてから帰宅する現代の若い世代に対して広報を打つ際には、アナログな手段だけでは目に入らないおそれもあります。そこで、社会の課題を解決する事業を当会が行うにあたっては、ぜひともお呼びしたい地域の『あなた』にお越しいただくために、アナログな手法とデジタルの手法をどのように組み合わせることが最も効果的な広報となるかについて皆で意見をだしあい、地域の『あなた』に届く広報を展開して参ります。

【会員拡大活動とは、生涯の友をつくること】

この３年間、会員拡大活動に尽力した結果、のべ２０名を超える会員が当会に入会されました。多くの方が当会に入会している現状をふまえ、これまで積み重ねてきた会員拡大活動をさらに高い意識のもと継続して参ります。小平で働き、また小平で暮らす方の中には、地域に貢献したい、まちの子どもたちのためになにかしてあげたいと考える方がいらっしゃるはずです。小平市には１９万７千もの方が暮らし、その内およそ３万人が２０歳から４０歳であり、それだけの人口を持つ小平市にはまだまだ新たな仲間を増やしていくための土壌が残されています。地域の皆様とも手を携え、当会の事業に関わっていただきながら、環を広げていく運動を行います。

私たちの運動、私たち青年会議所に関連する事業に、多くの地域の『あなた』に関わっていただくことが、生涯の友というかけがえのない財産にまで繋がり、これこそが青年会議所運動の本質と考えます。地域に住まうまだ見ぬ『あなた』とともに過ごしたい。友として、仲間として、ともに語らい、ともに成長していきたい。今年も引き続き、近年培ってきた他の地域団体との交流をより一層深めながら、地域活動への意欲を持った会員増強のための事業を展開して参ります。

【会員のポテンシャルを引き出せ】

多種多様な人財が集まる当会は、会員の資質向上もその使命の一つとしています。普段の仕事ではできないことも、当会では経験をすることができます。役職が人を育てるという言葉が青年会議所では多用されますが、まさにその通りで、本業では日頃行うことのない役割を敢えて担っていただくことで、会員の資質向上ひいては、地域団体の核となる人財としての成長の場があります。やったことがないからと消極的な姿勢になることなく、やったことないけれどもやってみたいというポジティブな姿勢で行きましょう。失敗に対して寛容なのが、青年会議所の特徴の一つです。結果が伴わなかったとき、失敗を失敗で終わらせず、次につなげていこうという姿勢が重要です。ぜひこの１年間は、会員には多くの成功・多くの失敗を積んでいただきたいと思います。良い事業を作るためならばと、挑戦する気概を忘れず、妥協した事業にならないよう良いコミュニケーションをとっていきましょう。

また出向も大事にしてほしいと考えております。都内には２４の各地青年会議所に１３００名を超える、職種や業種も多様な会員が在籍しています。交流を通じて人脈が広がるとともに、広域的な視点に立った事業構築に携わることで知見が広がります。出向も通じて会員の資質向上を図って参ります。

【おわりに】

２０１９年６月に入会してから早いもので５年半が経ちました。

生まれ育ったこの小平のために働きたい、こどもたちになにかしてあげたいと考えていたとき、私は青年会議所を紹介されました。やってみようとあのとき踏み出した一歩があったことで、私は今ここに立っていて、横にはこれだけ多くの仲間ができました。

この５年を振り返るとき、先輩たちに温かく見守られ、伸び伸びと多くの事柄に挑戦し、成長の機会をいただいてきました。仲間と共に過ごす時間は、かけがえのない充実した時間でした。青年会議所運動は、一人では良いものはできません。ひとりの頑張りより皆での頑張り、ひとりのアイディアよりも皆でのアイディアのほうが総じて良いものができます。小平青年会議所が、地域を愛し、より一層地域に愛される団体になるためには、全員の力が必要です。そのために必要なことは、円滑なコミュニケーションです。自分の想いを熱く語りましょう。そしてなにごとにも率先して挑戦してみましょう。挑戦する仲間を見守り、支えていくためには、その仲間の成長を信じ、託すことが重要です。

今年のスローガンを、『信じ　託す』と掲げました。信じ、託すことで、互いに責任感・使命感が醸成され、それは仲間意識に繋がっていくと確信しています。なにかをできるようになったから、成長したから信じ託すのではないのです。信じ、託したからこそ、成長するのです。生涯のとも（友）と、とも（共）に、日々成長しながら進んでまいります。その日々の積み重ねこそが、明るい豊かな社会の実現に寄与していくための道だと確信しております。

メンバーの個性が生き生きと咲き誇るよう、小平青年会議所の運動の土台をしっかりと支え、１年間駆け抜けていくことをお誓い申し上げ、理事長所信とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

２０２５年度一般社団法人小平青年会議所スローガン

信じ　託す

～語ろうともに 進もう前へ～